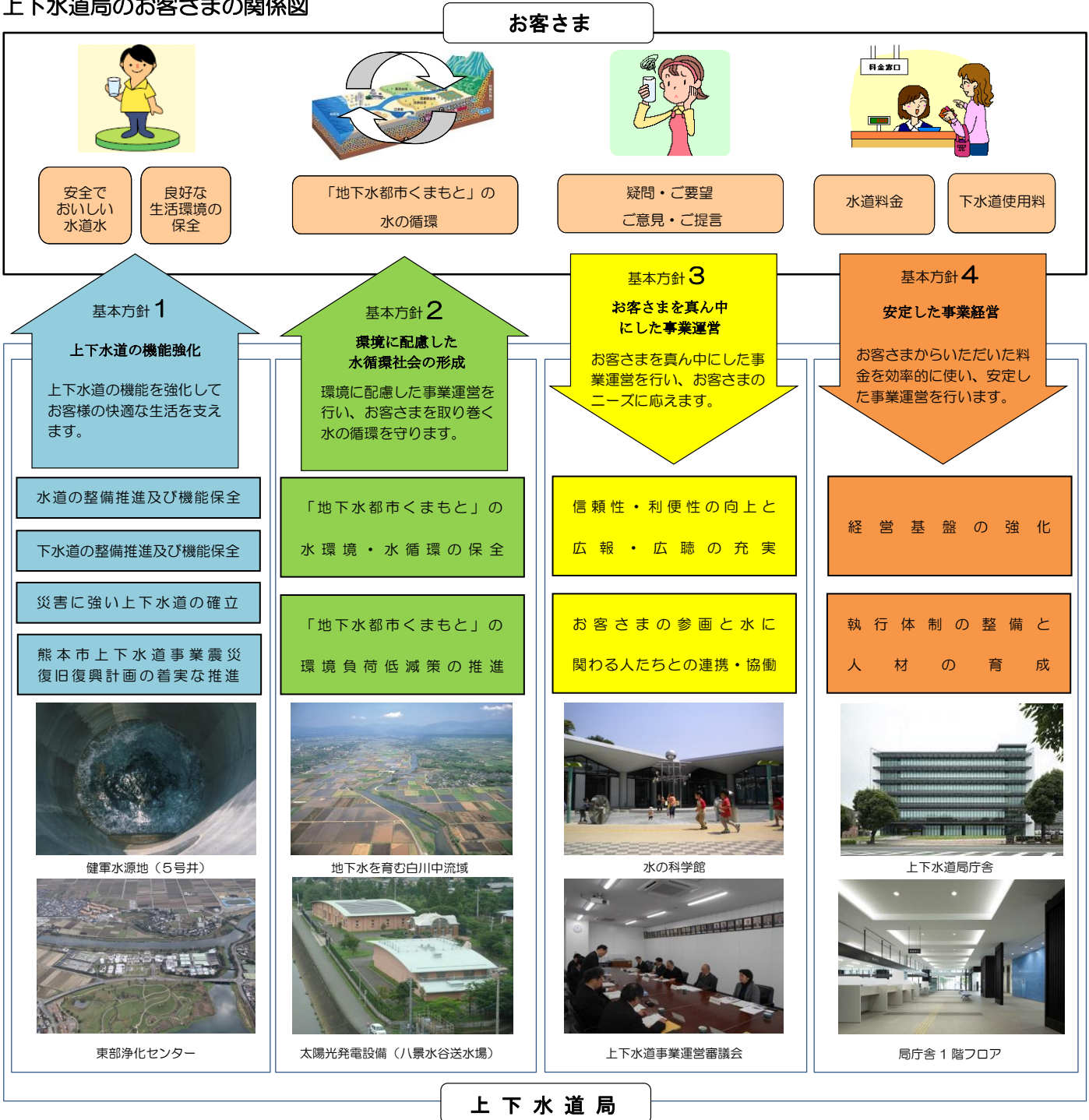


熊本市上下水道事業経営基本計画 事業評価報告書（平成29年度）

概要版

上下水道局のお客さまの関係図



平成30年9月

熊本市上下水道局

趣旨

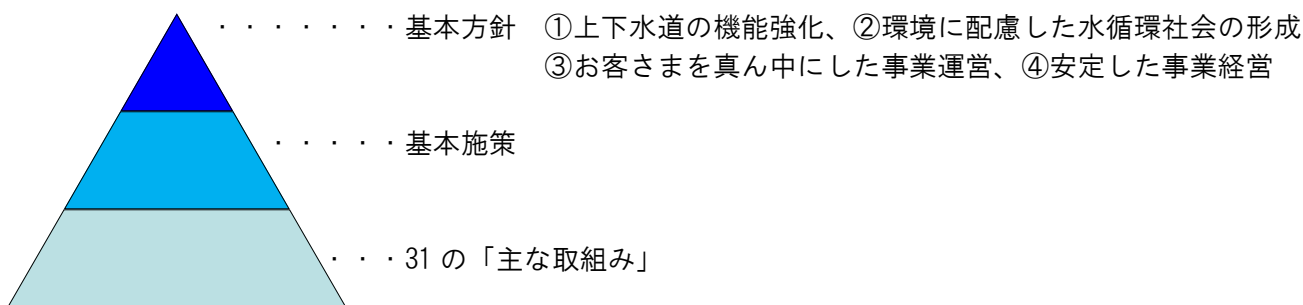
熊本市上下水道局では、平成 24 年 3 月に「熊本市上下水道事業経営基本計画」（計画期間：平成 24 年度～平成 33 年度）を策定し、事業を推進してきました。また、国が示すビジョンの反映や熊本地震からの早期復旧・復興を着実に推進していくために、平成 29 年度に中間見直しを行いました。

事業の推進にあたっては、毎年度、主な取組みの実績や成果指標の達成状況について検証を行い、今後の事業運営に活用することとしています。このたび、事業評価結果（平成 29 年度）がまとまりましたので、市民のみなさまに公表いたします。

事業評価の概要

■ 評価項目（評価の単位）

中間見直し後の「熊本市上下水道事業経営基本計画」は、4 つの基本方針のもと、10 の基本施策、31 の「主な取組み」から成り立っています。



■ 成果指標

「主な取組み」ごとに、その取組みの内容や成果を客観的に評価できるよう「成果指標」を設けて評価を行っています。成果指標は、目標年次（主に平成 33 年度）に対する現時点での達成度を 4 段階で評価しています。なお、この概要版には主な成果指標のみ記載しています。評価の目安は以下のとおりです。

- 評価 A** 目標をすでに達成している。
- 評価 B** 目標に向けて順調に推移している。
- 評価 C** 基準値は上回るが順調に推移していない。
- 評価 D** 基準値を下回っている。

「熊本市上下水道事業経営基本計画」、事業評価報告書（概要版）、事業評価報告書は、上下水道局ホームページに掲載しています。

熊本市上下水道事業経営基本計画

検索

または、URL：http://www.kumamoto-waterworks.jp/?article_cat=management

基本方針 1 上下水道の機能強化

■基本施策 1 水道の整備推進及び機能保全

1-1 水道施設の維持管理

老朽管の更新や漏水防止対策等の実施により、水道施設の維持管理を計画的に行っています。

●平成 29 年度の主な実績

- ・老朽化した配水管の布設替工事（桜木・水源地区など）
- ・漏水調査の実施（調査延長約 2,380km、漏水発見件数約 571 件）

●成果指標

【水道】有効率(%)…(年間有効水量/年間配水量)×100

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 B
93.9%	91.0%	94.0% (目標値変更)	
評価理由	基準値を下回るものの、平成 29 年度の目標 (90.4%) は達成しており、順調に推移しているため		

●今後の方向性

第 10 次漏水防止実施計画 (H21～H30) に基づき、計画的漏水調査を実施し目標達成を目指します。また、音聴調査を主体とする漏水調査に加え、漏水調査手法の検討を行い、より多くの漏水発見に努めます。

1-2 水道施設の機能強化

未普及地区の整備や小規模施設の統廃合により、水道施設の機能強化を図ります。

●平成 29 年度の主な実績

- ・水道未普及地区の整備（城南町永地区、城南町丹生宮地区など）
- ・南部送水場関連工事の完了及び同送水場の運用開始

●成果指標

【水道】給水普及率(%)…(給水人口/給水区域内人口)×100

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 C	評価理由
94.0%	95.4%	97.0% (目標値変更)		水道の新規加入率が順調に推移していないため

●今後の方向性

水道施設整備実施計画及び第 6 次拡張事業に基づき計画的に事業を進めるとともに、水道の加入啓発活動を強化し、給水普及率の向上に努めます。

1-3 水道水質の維持管理

安全安心な水道水を供給するために、水道水質の品質管理を確実にしています。

●平成 29 年度の主な実績

- ・水質検査計画に基づく水質検査の実施

●成果指標

【水道】水質基準達成率(%)…(水質基準適合回数/年間検査回数)×100

基準値 (H28)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 A	評価理由
100%	100%	100%		目標を達成したため

●今後の方向性

水安全計画や水質検査計画に基づき水道水の水質管理を確実に実施します。

■基本施策 2 下水道の整備推進及び機能保全

2-1 公共下水道の整備

下水道未普及地区の整備を推進しています。

●平成 29 年度の主な実績

- ・下水道未普及地区への下水道管布設（熊本地区 27ha、富含地区 6ha、城南地区 7ha、植木地区 47ha）

●成果指標

【下水道】普及率(%)…(処理区域内人口/行政区域内人口)×100

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 C	評価理由
86.2%	89.5%	96.1%		基準値は上回っているが順調に推移していないため

●今後の方向性

国庫補助制度を有効活用し、下水道事業の推進を図ります。また、下水道全体計画の見直しを検討し、効率的な未普及地区解消に取り組みます。

2-2 下水道施設の維持管理

下水道管・ポンプ場・浄化センターの長寿命化対策に取り組んでいます。

●平成 29 年度の主な実績

- ・浄化センター及びポンプ場の機器の更新や長寿命化対策の実施
- ・管渠長寿命化計画に基づく城東 A 地区、東町地区などの管渠更生工事の実施

●成果指標

【下水道】浄化センター・ポンプ場の施設機器の更新率(%)…(H20~30 改築済機器総数/H20~30 改築必要機器数)×100

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H30)	評価 C	評価理由
33.0%	75.0%	100%		目標に向け整備を進めているが、目標達成が困難なため

●今後の方向性

引き続き、下水道施設長寿命化計画（H30 からストックマネジメント計画に移行）に基づき効率的かつ効果的な維持管理に取り組んでいきます。

2-3 下水道放流水質の向上

水洗化率（下水道接続率）の向上や放流水質の向上を図っています。

●平成 29 年度の主な実績

- ・水洗化率向上対策の実施（指定工事店を対象とした事業者説明会など）

●成果指標

【下水道】水洗化率(%)…(下水道接続済人口/処理区域人口)×100

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 A	評価理由
96.6%	97.2%	97.0%		目標を達成したため

●今後の方向性

さらなる水洗化率の向上を図るため未接続世帯への啓発を継続的に実施します。

■基本施策3 災害に強い上下水道の確立

3-1 総合的危機管理体制の確立

災害時に適切な対応を図るため、危機管理体制の整備を進めています。

●平成29年度の主な実績

- ・自然災害等への計画的対応（局災害対策マニュアルの改訂、3.4t給水車の取得など）
- ・上下水道局敷地内に貯水機能付給水管（6t）を設置
- ・緊急遮断弁を設置した南部送水場の運用開始

●成果指標

【水道】災害対策用貯水量（ m^3 ）…災害発生時に飲用水が確保できる量

基準値（H23）	実績（H29）	目標値（H33）	評価 B	評価理由
60,350 m^3	61,050 m^3	68,000 m^3		

●今後の方向性

引き続き、ハード・ソフト両面から危機管理体制の整備を進めます。

3-2 地震対策の推進

水道施設及び下水道施設の耐震化を進めています。

●平成29年度の主な実績

- ・基幹管路の耐震化（亀井水源地～立田山配水池間の $\phi 700$ 耗送水管の布設替工事など）
- ・下水道総合地震対策計画に基づく下水道施設の耐震診断の実施

●成果指標

【水道】耐震適合性のある基幹管路の割合（%）…（耐震性のある基幹管路延長/基幹管路総延長） $\times 100$

基準値（H23）	実績（H29）	目標値（H33）	評価 B	評価理由
67.7%	77.8%	82.0%		

【下水道】管路耐震化率（%）…（耐震済管路延長/整備済管路延長） $\times 100$

基準値（H24）	実績（H29）	目標値（H32）	評価 B	評価理由
32.2%	36.3%	38.3%		

●今後の方向性

水道施設整備実施計画及び下水道総合地震対策計画に基づき計画的に耐震化を進めます。

3-3 浸水対策の推進

浸水被害の頻度が高い重点6地区の整備を進めています。

●平成29年度の主な実績

- ・坪井川第3排水区の遮断壁工事が完了し、調整池築造工事に着手

●成果指標

【下水道】重点6地区の対策率（%）…（重点6地区の改善済排水面積/重点6地区の総排水面積） $\times 100$

基準値（H23）	実績（H29）	目標値（H33）	評価 C	評価理由
0.8%	43.2%	58.7%		

●今後の方向性

熊本地震の影響等により事業の進捗が遅れているため、これまでの実績や地震の影響等を踏まえた事業計画の見直しを行います。

■基本施策4 熊本市上下水道事業震災復旧復興計画の着実な推進

4-1 上水道・工業用水道施設の早期復旧

熊本地震により甚大な被害を受けた上水道・工業用水道施設を早期に復旧し、安定した水道給水体制を確保します。

●平成29年度の主な実績

- ・被災した水道管路の布設替工事（東区沼山津など）を実施
- ・被災した配水場（舞原、一木など）の原型復旧工事を実施

●成果指標

【水道】熊本地震により被災した上水道管路の復旧延長(km)

基準値	実績（H29）	目標値（H31）	評価 B	評価理由
—	3.7km	4.4km (100%)		

【水道・工業用水道】熊本地震により被災した水道施設の復旧施設数（施設）

基準値	実績（H29）	目標値（H31）	評価 B	評価理由
—	35施設	40施設 (100%)		

●今後の方向性

復旧工事を平成30年度内に竣工し、早期復旧を目指します。

4-2 下水道施設の早期復旧

熊本地震により甚大な被害を受けた下水道施設を早期に復旧し、汚水の流下及び処理機能の本格的な復旧に努めます。

●平成29年度の主な実績

- ・国の災害査定に認められた28工区の復旧工事（管路）のうち24工区は契約済（内11工区は工事完了）
- ・9施設の復旧工事を完了、また主に土木工事において復旧設計を発注

●成果指標

【下水道】熊本地震により被災した下水道管路の復旧延長(km)

基準値	実績（H29）	目標値（H31）	評価 B	評価理由
—	15.8km	47.4km (100%)		

【下水道】熊本地震により被災した下水道施設の復旧施設数（施設）

基準値	実績（H29）	目標値（H31）	評価 B	評価理由
—	18施設	23施設 (100%)		

●今後の方向性

未契約の工区は、引き続き関係部署・団体等と対策を協議し早期に受注業者を決定します。

4-3 上水道・工業用水道施設の耐震化

防災対策として上水道・工業用水道施設の耐震化を推進するとともに、減災対策として災害対策貯水施設等を整備します。

●平成 29 年度の主な実績

- ・老朽化した配水管の更新（桜木、水源など）や基幹管路の更新（龍神橋、神水など）
- ・南部送水場関連工事の完了及び同送水場の運用開始

●成果指標

【水道】耐震適合性のある基幹管路の割合(%) … (耐震性のある基幹管路延長/基幹管路総延長) × 100

基準値 (H28)	実績 (H29)	目標値 (H31)	評価 B	評価理由
74.3%	77.8%	80.0%		

●今後の方向性

水道施設整備実施計画に基づき、着実に耐震化を推進していきます。また、同計画の見直しを行う予定です。

4-4 下水道施設の耐震化

防災対策として下水道施設の耐震化を推進するとともに、減災対策として浄化センターに非常用発電設備を設置します。

●平成 29 年度の主な実績

- ・下水道施設（浄化センター・ポンプ場・管路）の耐震診断及び設計を実施
- ・中部浄化センターに非常用発電設備を設置

●成果指標

【下水道】耐震化済み下水道管路延長 (km)

基準値 (H27)	実績 (H29)	目標値 (H31)	評価 B	評価理由
880km	929km	979km		

●今後の方向性

平成 28 年度に見直した下水道総合地震対策計画に基づき、事業の着実な推進を図ります。

4-5 災害時対応力の強化

熊本地震における課題の検証を踏まえ、災害時の受援体制の構築や協定締結を促進します。また、災害時における応急給水体制の構築やマンホールトイレの整備を進めます。

●平成 29 年度の主な実績

- ・給水車 (3.4t) の取得と貯水機能付給水管 (6t) の局敷地内への設置
- ・災害時広報計画の策定

●成果指標

【水道】既存の貯水機能付給水栓の改良数 (箇所)

基準値	実績 (H29)	目標値 (H31)	評価 B	評価理由
—	14 箇所	28 箇所		

【下水道】マンホールトイレの設置基数 (基)

基準値 (H28)	実績 (H29)	目標値 (H31)	評価 B	評価理由
20 基	90 基	140 基		

●今後の方向性

災害対策マニュアル及び業務継続計画の改訂を進めるとともに、電話対応の民間委託等の協定締結を進めます。

基本方針 2 環境に配慮した水循環社会の形成

■基本施策 5 「地下水都市くまもと」の水環境・水循環の保全

5-1 地下水を「育む」取組み

安全な水道水を将来にわたり安定的に供給するため、地下水保全事業や水の有効活用に取り組んでいます。

●平成 29 年度の主な実績

- ・白川中流域水田を活用した地下水かん養事業への支援（負担金：18,458 千円）
- ・公益財団法人くまもと地下水財団への参画（負担金：24,325 千円）

●成果指標

【水道】地下水かん養量(万 m^3)…上下水道局が関与した水田湛水事業による年間の地下水かん養量

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 C	評価理由
671.3 万 m^3	1,317.1 万 m^3	1,400 万 m^3 (目標値変更)		

※中間見直しにより H29 以降と目標値には、くまもと地下水財団負担金に相当する推定涵養量を含む

●今後の方向性

引き続き、白川中流域における地下水かん養事業、水源涵養林整備事業に対する支援及び公益財団法人くまもと地下水財団への参画を通じた地下水保全に取り組んでいきます。

5-2 地下水のおいしさを「届ける」取組み

直結給水を推進するとともに、水道水の安全性やおいしさの P R に努めています。

●平成 29 年度の主な実績

- ・直結給水方式の推進（直結給水への普及啓発件数 4,050 件）
- ・水道水の安全性やおいしさの P R（広報紙・ホームページ・出前教室・施設見学など）

●成果指標

【水道】水道水をそのまま飲む人の割合(%)…市民へのアンケート調査 ※新規指標

基準値 (H27)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 D	評価理由
50.0%	41.9%	57.0%		

●今後の方向性

直結給水方式の情報提供や水道水の安全性・おいしさの P R について、効果的な方法を考えながら継続して実施していきます。

5-3 水を自然に「還す」取組み（総合的な汚水処理対策）

公共下水道、合併処理浄化槽、農業集落排水のそれぞれの役割分担を踏まえ、関係部署と連携して、総合的な汚水処理対策を推進しています。

●平成 29 年度の主な実績

- ・公共下水道、農業集落排水及び合併処理浄化槽の関係部署との連携会議の実施

●成果指標

【下水道】汚水処理率(%)…(下水道・合併処理浄化槽・農業集落排水処理の合計人口/行政人口)×100

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 C	評価理由
93.2%	96.2%	99.1%		

●今後の方向性

国の方針である汚水処理 10 年概成の達成に向け、関係部署と連携しながら総合的な汚水処理対策を推進します。また、下水道全体計画の見直しを検討し、効率的な未普及地区解消に取り組みます。

■基本施策6 環境負荷低減策の推進

6-1 地球温暖化対策の推進

自然エネルギーの活用などにより、地球温暖化対策を推進しています。

●平成29年度の主な実績

- ・自然エネルギー導入計画に基づく取組み（太陽光発電や小水力発電の活用など）

●成果指標

【上下共通】自然エネルギー発電量(千kwh)

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 A	評価理由
68,1千kwh	5,003千kwh	4,674千kwh		

●今後の方向性

自然エネルギー買取価格の下落等を踏まえ、経済性や事業効果を再検討し、自然エネルギー導入計画の見直しを行います。

6-2 資源の有効活用

下水道資源の有効活用やグリーン計画を推進するなど資源の有効活用に取り組んでいます。

●平成29年度の主な実績

- ・下水汚泥固形燃料化施設（南部）及び消化ガス発電設備（中部、東部）における消化ガスの有効利用

●成果指標

【下水道】消化ガスの利用率(%)…(消化ガス利用量/消化ガス全発生量)×100 ※新規指標

基準値 (H28)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 B	評価理由
72.7%	80.2%	86.9%		

●今後の方向性

西部浄化センターへの消化ガス発電設備の導入について、国などのエネルギー施策や民間活力の活用など、費用対効果を見極めながら検討を行っていく。

6-3 下水道高度処理の推進

有明海等の水質改善に向けて高度処理に取り組めます。

●平成29年度の主な実績

- ・東部浄化センター増設用地の全ての土地の収用を完了した
- ・今回の処理場増設に対して市民から提出された要望書に係る説明会の開催

●成果指標

【下水道】高度処理施設整備実施率(%)…予算の執行率 ※新規指標

基準値 (H28)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 B	評価理由
2.1%	8.4%	77.2%		

※実績値は低いものの、増設予定地の収用など計画通り進捗しています。

●今後の方向性

要望への対応状況及び工事の内容に関して工事着手前に再度地元説明会を行い、説明会実施後に調整池工事に着手する予定です。

基本方針3 お客さまを真ん中にした事業運営

■基本施策7 信頼性・利便性の向上と広報・広聴の充実

7-1 お客さまの信頼性・利便性の向上

コンプライアンスの徹底などにより、お客さまの信頼性や利便性の向上に努めています。

●平成29年度の主な実績

・課毎に職員の不祥事根絶のための取組み目標を設定し、結果について毎月の局内会議において報告した

●成果指標

【上下共通】研修受講率(%)…(研修述べ受講者/全職員数×10)×100 ※新規指標

基準値	実績(H29)	目標値(H33)		評価理由
-	69.5%	100%	-	H29実績を基準値とする

●今後の方向性

引き続きお客さまの利便性の向上に努めるとともに、コンプライアンス遵守の徹底や事務処理ミスの防止に努めていきます。

7-2 お客さまに身近でわかりやすい情報の提供

広報体制を充実するとともに、適切な情報の提供に努めています。


●平成29年度の主な実績

・経営基本計画の中間見直しに併せて検証指標の見直しを実施した

・前年と同様に広報業務を民間企業に委託し、効果的かつ戦略的な広報を実施した

●成果指標

【上下共通】ホームページアクセス数(人)

基準値	実績(H29)	目標値(H33)		評価理由
-	576,430人	600,000人		目標を下回っているため

●今後の方向性

今後も民間の提案を取り入れた広報展開を図り、市民の方へ分かりやすい情報発信を行っていきます。

7-3 お客さまニーズの的確な把握


お客さまアンケートの実施等により、お客さまニーズの的確な把握に努めています。

●平成29年度の主な実績

・無作為抽出の市民や水の科学館の来館者などに対して行ったアンケートをデータ化し、意見等を分類することによりニーズの把握に努めた

●成果指標

【上下共通】お客様からのご意見数(件)…実施したアンケートに対する回答人数

基準値	実績(H29)	目標値(H33)		評価理由
-	365件	350件		目標を達成したため

●今後の方向性

今後も継続的にアンケート調査等によりご意見を伺い、お客さまニーズの的確な把握に努めます。

※基本施策8「お客様の参画と水に関わる人たちとの連携・協働」については、事業の性質上、数値で成果を図ることが困難であるため、成果指標は設定していません。

基本方針4 安定した事業経営

■基本施策9 経営基盤の強化

9-1 中長期的な財政見通しに基づく事業経営

財政見通しに基づき安定した事業運営を推進しています。

●平成29年度の主な実績

- ・平成30年度当初予算を基礎として、平成33年度までの財政収支見通しを更新した

●成果指標

【水道】企業債残高(億円)

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 B
326 億円	337 億円	334 億円	
評価理由	新庁舎建設や震災復旧など特殊要因を除く通常の建設改良企業債は、発行額を償還額以下に抑え、残高を減少させることができ、目標に向け順調に推移しているため。		

【下水道】企業債残高(億円)

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 B
1,495 億円	1,362 億円	1,306 億円	
評価理由	発行額が償還額以下であることから、企業債残高は一貫して減少傾向にあり目標達成に向け順調に推移しているため。		

●今後の方向性

今後は、給水収益の減や施設の老朽化の加速など経営環境の厳しさが一層増していく中で、持続可能な経営基盤を確立するために、国の要請に基づき経営戦略を策定する予定です。また、平成31年度中に、投資計画と財政計画が均衡した10か年の投資財政計画を策定する予定です。

9-2 コストの削減と資産の有効活用

職員数の削減や事務事業経費等のコスト削減に取り組むとともに、資産の有効活用等に努めています。

●平成29年度の主な実績

- ・遊休資産を売却(4件)し、資産の有効活用を図った
- ・費用の一部において要求上限を設定し、事務経費などの縮減を行った

●成果指標

【水道】純損益(百万円)

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 A
2,051 百万円	2,607 百万円	1,761 百万円	
評価理由	平成29年度は概ね震災前の平常運営に戻り、順調に推移しているため。 (財政見通しにおける収支：1,911 百万円)		

【下水道】純損益(百万円)

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 A
941 百万円	2,016 百万円	1,259 百万円	
評価理由	平成29年度は概ね震災前の平常運営に戻り、順調に推移しているため。 (財政見通しにおける収支：1,579 百万円)		

●今後の方向性

遊休資産の売却等、今後も資産の有効活用を図るとともに、効率的な事業を推進するために、官民連携等の検討を継続します。

9-3 料金、負担金等のあり方

水道料金や下水道使用料等の適正な基準等について検討していきます。

●平成 29 年度の主な実績

- ・財政収支見通しの中間見直しにおいて、現行料金の体系及び水準について検討を行った

●成果指標

【水道】純損益(百万円)

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 A
2,051 百万円	2,607 百万円	1,761 百万円	
評価理由	平成 29 年度は概ね震災前の平常運営に戻り、順調に推移しているため。 (財政見通しにおける収支：1,911 百万円)		

【下水道】純損益(百万円)

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 A
941 百万円	2,016 百万円	1,259 百万円	
評価理由	平成 29 年度は概ね震災前の平常運営に戻り、順調に推移しているため。 (財政見通しにおける収支：1,579 百万円)		

●今後の方向性

今後は、給水収益の減や施設の老朽化の加速など経営環境の厳しさが一層増していく中で、持続可能な経営基盤を確立するために、国の要請に基づき経営戦略を策定する予定です。また、平成 31 年度中に行う投資計画と財政計画が均衡した 10 か年の投資財政計画の策定において、料金体系及び水準の検討を行います。

■基本施策 10 執行体制の整備と人材の育成

10-1 執行体制の見直しと整備

意思決定過程の効率化や定員管理の適正化などに取り組み執行体制の見直しと整備を進めています。

●平成 29 年度の主な実績

- ・各種委員会等を経営会議に統合し、下部組織として経営調整会議を設置した
- ・局の震災復興推進会議において協議し、復旧復興計画を策定した

●成果指標

【水道】純損益(百万円)

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 A
2,051 百万円	2,607 百万円	1,761 百万円	
評価理由	平成 29 年度は概ね震災前の平常運営に戻り、順調に推移しているため。 (財政見通しにおける収支：1,911 百万円)		

【下水道】純損益(百万円)

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)	評価 A
941 百万円	2,016 百万円	1,259 百万円	
評価理由	平成 29 年度は概ね震災前の平常運営に戻り、順調に推移しているため。 (財政見通しにおける収支：1,579 百万円)		

●今後の方向性

安定した事業運営を行うため、今後も適宜執行体制の見直しや整備を進めていきます。

10-2 人材の育成

職員研修の充実や人材育成型配置転換の実施などにより、人材の育成を図っています。

●平成 29 年度の主な実績

- ・派遣研修の実施や局内の集合研修の充実、資格取得に対する支援を行った

●成果指標

【上下共通】研修受講率(%)…(研修述べ受講者/全職員数×10)×100 ※新規指標

基準値	実績 (H29)	目標値 (H33)		評価理由
-	69.5%	基準値より増加	—	H29 実績を基準値とする

●今後の方向性

職員の資質向上や技術の継承がなされるよう、職員研修や上下水道事業間の人事交流を実施していきます。

10-3 国際貢献


JICA（国際協力機構）等の海外からの研修生に対して、上下水道事業に関する技術の提供を行います。

●平成 29 年度の主な実績

- ・JICA や留学生からの研修要請について積極的に受け入れを行い、施設見学等を実施した

●成果指標

【上下共通】国際交流延べ人数（人）

基準値 (H23)	実績 (H29)	目標値 (H33)		評価理由
11 人	147 人	基準値より増加		前年から増加し、かつ目標を達成したため

●今後の方向性

引き続き、研修要請を積極的に行っています。